宗教的・政治的プロパガンダとしての彫刻

大阪芸術大学　教養課程　教授　石井　元章

デイヴィット・ローザンド（David Rosand）はその著作『*Myths of Venice: The Figuration of a State*（ヴェネツィア神話：ある国の図像化）』（University of North Caroline Press 2001）の中で、公の場、特にヴェネツィア共和国の中枢として唯一 piazza の名を持つ Piazza San Marco（サン・マルコ広場）が政治・宗教的な機能を持った作品に溢れていると指摘した。彼は「いとも晴朗なる共和国（La Repubblica Serenissima）」の政治的中心であるその広場で政治・宗教的表象としての「ヴェネツィア＝正義＝聖母マリア」（第一章）と聖マルコ（第二章）、そして正義の象徴としてのソロモンの図像（第三章）が、新しいオリュンポスの確立（第四章）とともにどのように構築されていったかを入念に示した。その意味でローザンドの著作は都市形成の政治的文脈を解明した総括的意義を持つ。報告者は本書の翻訳を進めており、出版社にもすでにコンタクトを取っている。

本研究はローザンドの手法に基づき、共和国時代の広場（campo）や聖堂に見られる政治性・宗教性を探ることを目的としたが、その前段階として今年度は、1861 年に成立したイタリア王国にヴェネツィア市が加わった後に設置された記念碑についてまとめたので、その報告を行なう。

現在のイタリア共和国の前身であるイタリア王国の諸都市では、初代国王となったヴィットリオ・エマヌエーレ II 世と王国成立の立役者であるカヴール伯爵（本名カミッロ・フィリッポ・ジュリオ・ベンソ）やジュゼッペ・ガリバルディの記念像が建てられ、道路や広場にも彼らの名が冠せられる現象が見られた。彼らに加えて、それぞれの街（元の国）独自の歴史上の人物が記念像として建てられていく。

ヴェネツィア市では、それら「王国時代」の記念像が街の中心であるサン・マルコ広場ではなく、衛星地区とも言える周辺の広場に建てられていく。現在でもミラノ市を中心とした北部同盟、ナポリを中心とした南部同盟に対抗して、ヴェネト同盟として現イタリア共和国からの独立を模索するヴェネツィアは、過去の「いとも晴朗なる共和国」の記憶を復活させようとする。その強い独立心が、共和国の歴史の詰まったサン・マルコ広場を無傷のまま残そうとしたのは当然のことと思われる。

初代国王《ヴィットリオ・エマヌエーレ II 世騎馬像》（エットレ・フェルラーリ作）は 1887 年 5 月 1 日に「スラブ人の岸辺（Riva degli Schiavoni）」に建てられた。その台座には第二次イタリア独立戦争中の 1859 年 5 月 30 日の《パレストロの闘い》や 1866 年 11 月 7 日の《王のヴェネツィア入城》などヴェネツィア市のイタリア王国加入にまつわる場面が浮き彫られている。

一方、《ジュゼッペ・ガリバルディ記念像》（アウグスト・ベンヴェヌーティ作）はそれに先立つ 1885 年に、ナポレオンが開発を命じたカステッロ地区に新しく作られ、同じく彼の名を冠したガリバルディ大通りの中心に建てられていた。

祖国統一運動（Risorgimento）に関わったヴェネツィア・プロパーの英雄たちの肖像の多くは、「サン・マルコ広場の入口（Bocca di Piazza）」と呼ばれる、ナポレオン翼の裏側に浮彫の形で嵌め込められた。イタリア統一の主唱者《ヤコポ・カステッリの肖像》（ジェローラモ・ボルトッティ作）、ヴェネツィア防衛戦指揮官《将軍ジュゼッペ・シルトーリの肖像》（アントニオ・ダル・ツォット作）、オーストリアにヴェネツィアを放棄させた弁護士《フランチェスコ・アヴェザーニの肖像》（同作）、経済学者で大臣を務めた《G. B. ヴァレーの肖像》（カルロ・ロレンツェッティ作）、ヴェネツィア暫定政府のメンバー《ヤコポ・ペーザロ＝マウロゴナートの肖像》（同作）、1849 年のヴェネツィア防衛戦で戦死したナポリ人《カルロ・ポエーリオの肖像》（P. カルレッティ作）、イタリア独立の殉職者 3 人の肖像（アキッレ・タンブルリーニ作）、ヴェネツィア防衛戦でオーストリアに対抗したナポリ人 5 人の集団肖像（カルロ・ロレンツェッティ作）がそれに当たる。

反オーストリア抗戦の指導的役割を果たした愛国者弁護士《ダニエレ・マニン記念立像》（ルイジ・ボルロ作）は、同名のマニン広場（Campo Manin）に設置され、1882 年の洪水で殉職した兵士たちに捧げられた《陸海軍兵記念碑》（アウグスト・ベンヴェヌーティ作）や愛国的文学者《ニッコロ・トンマゼオ立像》（サント・ステーファノ広場、フランチェスコ・バルザーギ作）も街中の広場（campo）に建てられた。共和国時代の人物にも記念像が捧げられ、サンタ・フォスカ橋付近で刺客に暗殺された《僧パオロ・サルピ立像》（エミリオ・マルシーリ作）や著名な喜劇作家《カルロ・ゴルドーニ立像》（アントニオ・ダル・ツォット作）などがある。

ヴェネツィア市ではこのように、街の中心部は共和国時代のままに残され、統一運動以降のイタリア王国時代の記念像はその周辺に置かれたことが明確に理解できる。